

国語科学習指導案

1 単元（題材）名

2 ひらがなのがくしゅう「せんのおわりのかきかた」

2 単元の目標

○平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方を理解して、正しく書くことができる。【知識及び技能】

○文字の外形や書き順に気を付けて、正しく書くことができる。【知識及び技能】

○句読点、かぎなどの書き方を理解して、正しく書くことができる。【知識及び技能】

○「ひらがなのがくしゅう」において、始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方や文字の外形、書き順について考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方に気を付けることができる。【学びに向かう力、人間性等】

○今までの学習を生かして、他の文字でも字形を整えて書こうと意識することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方、文字の外形、書き順、句読点やかぎなどの書き方を正しく理解している。 平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方などに気を付けて、正しく書いている。	平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方、文字の外形、書き順、句読点やかぎなどの書き方について考えている。	平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はらい」）の書き方、文字の外形、書き順、句読点やかぎなどの書き方に気を付けて書こうとしている。 今までの学習を生かして、他の文字でも字形を整えて書こうとしている。

4 単元について

本単元では、文字学習の始めとして、平仮名の書き方を学習する。平仮名一文字一文字の「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」などの書き方や書き順、拗音・促音などの書き方を理解し、語句や文の中で正しく書けるようになることをねらいとしている。

1年生は文字学習の入門期であり、ここでの学習がその後の書写学習につながっていくように、文字の基礎・基本を学んでいく必要がある。そこで、本単元では、整った文字を書くためのきまりを子ども自ら

が発見したり納得しながら練習したりできるように、手立てや練習方法を工夫する。その際、「とめ・はね・はらい」「おれ・まがり・むすび」などの書写用語も積極的に使うようにし、文字を見る目を養うとともに、その後の学習にもつながっていくようにしたい。

本学級の児童の多くは、日頃からひらがなの学習に一生懸命に取り組み、文字を書くことに対して意欲的である。しかし、入学してから2か月しか経っていないため、整った字形で文字を書くことにおいて、意識面・技術面ともに課題がある。そこで、課題把握の段階では、始筆・送筆・終筆部分を隠して提示したり、書き誤った文字と整った文字の字形を比較する活動を取り入れたりして、整った字形や書き方を意識させたい。課題解決（練習）の段階では、水書用筆を使った練習を取り入れ、正しい終筆の仕方や感覚を身に付けさせたい。また、書写学習全体において、お互いの書いた文字を見合う時間を確保したり、机間指導時に、教師が取り組む姿勢や字形を称賛したりすることで、字形の整った文字が書けるようになる達成感を高めていきたい。

5 単元の流れ（10時間扱い）

時	内容	目標	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本時	① せんの おわりの かきかた	文字の終筆（「とめ」「はらい」）の書き方について理解し、正しく書くことができる。	終筆の書き方について理解し、気を付けて書いている。	終筆の書き方について考えている。	他の文字についても、終筆の書き方を意識して見付けようとしている。
2	② かきじゅん	書き順の原則（上から下、左から右）について理解し、正しく書くことができる。	書き順に気を付けて正しく書いている。	正しい書き順について考えている。	他の文字でも、書き順の原則に気を付けて書こうとしている。
3	③ じを かきはじめる ところ	文字の始筆（書きはじめるところ）の位置について理解し、正しく書くことができる。	文字の始筆の位置を理解している。	文字の始筆について考えている。	それぞれの部屋から書き始める文字を見付けて書こうとしている。
4	④ せんの とちゅうの かきかた	平仮名の送筆（「まがり」「おれ・おりかえし」）の書き方について理解し、正しく書くことができる。	「まがり」「おれ・おりかえし」の書き方について理解し、気を付けて書いている。	「まがり」「おれ・おりかえし」の書き方について考えている。	他の文字でも、「まがり」「おれ・おりかえし」の書き方に気を付けて書こうとしている。
5		平仮名の送筆（「むすび」）の書き方について理解し、正しく書くことができる。	平仮名の送筆（「むすび」）の書き方について理解し、気を付けて書いている。	「むすび」の形の違いについて考えている。	他の文字でも、「むすび」の形の違いに気を付けて書こうとしている。
6	⑤ にている ひらがな	形が似ている平仮名について、似ているところ（「まがり」の部分）と違うところを理解	形が似ている平仮名について、違うところを理解している。	平仮名の形の違いに気付いている。	形が似ている平仮名に興味を持ち、すすんで違いを見付けようとしている。

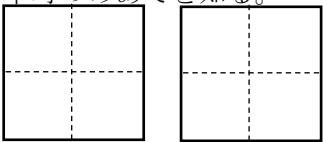
		し、気を付けて書くことができる。			
7		形が似ている平仮名について、似ているところ（「おりかえし」の部分など）と違うところを理解し、気を付けて書くことができる。			
8	6 ますめの なかの かくところ	拗音・促音、句読点、かぎ、濁音の書く位置や大きさを理解することができる。	拗音・促音の大きさや書く位置を理解している。	音・促音、句読点、かぎ、濁音の書く位置や大きさについて考えている。	まず目の中の書く位置に気を付け、言葉や文章の中で正しく書こうとしている。
9	7 じのかたち	それぞれの文字の、おおよその形について理解して、正しく書くことができる。	文字の外形に気を付けて正しく書いている。	文字の外形について形を表す言葉を考えている。	他の文字についても、外形を意識して書こうとしている。
10	8 ひらがなの ひょう	平仮名の書き順と字形に気を付けて、正しく書くことができる。	平仮名を正しい書き順で字形を整えて書いている。	「とめ」「はらい」「はね」「まがり」「おりかえし」「むすび」の正しい書き方について考えている。	「ひらがなのひょう」を見ながら先生や友達の名前を書く活動に、積極的に取り組もうとしている。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

終筆（「とめ」「はらい」）の書き方を理解し、正しく書くことができる。【知識及び技能】
「とめ」「はらい」の書き方について、考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
他の文字についても、終筆（「とめ」「はらい」）の書き方を意識して分類しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

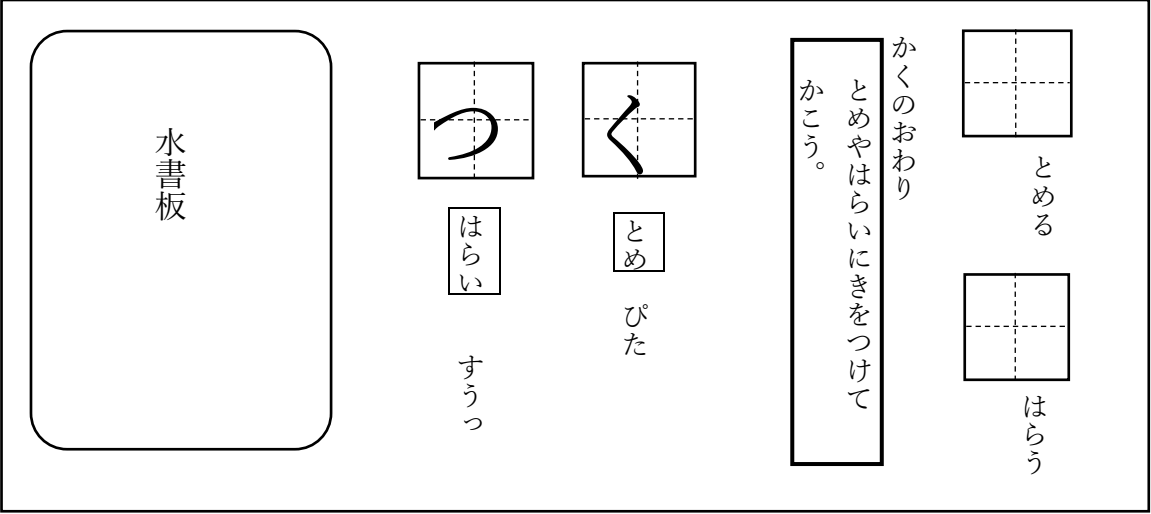
(2) 本時の展開（1/10）

過程	学習活動と内容	○教師の指導、支援 ◇評価	資料等
目標把握	1 「く」「つ」の試し書きをする。 2 本時のめあてを知る。  ・「く」の最後は「とめ」 ・「つ」の最後は「はらい」 とめやはらいにきをつけてかこう。	○何も助言せずにはかせることで、基準確認後に児童が終筆部分を意識できるようにする。 ○終筆部分に意識を向かせるために、終筆部分が書かれていない文字を黒板に貼り、その書き方について話し合うように声を掛ける。 ◇「とめ」「はらい」の書き方について考える。【思考力、判断力、表現力等】	ワークシート終筆部分を隠した文字

基準 確認	3 終筆の書き方を確かめる。 ・「とめ」はびたっととまる。 ・「はらい」はすうっとはらう。 ・試し書きに赤鉛筆で、気を付ける箇所に印をつける。	○「とめ」「はらい」をどのように書くとよいのか、正しい書き方について児童が発表しやすくなるように、音で表すように助言する。 ○正しい書き方の文字を範書して、児童の指摘があった部分を書き込んだり、「とめ」「はらい」を表すイラストを貼ったりすることで、基準を明確にする。 ○「とめ」「はらい」の書き方を声に出しながら一緒に空書きしたり、教科書の太文字を指でなぞらせたりすることで、児童が終筆部分の書き方をイメージできるようにする。	「とめ」「はらい」のイラスト
練習	4 練習する。 ・水書用筆を使った練習と鉛筆を使った練習を交互に行う。	○水書用筆の扱い方の約束を確認し、練習に集中できるようにする。 ○始めは「く」だけ、次は「つ」だけのように1文字ずつ練習することで、「とめ」や「はらい」の感覚とその違いをつかめるようにする。 ○水書用筆と鉛筆を交互に使いながら練習することで、水書用筆での練習で体得した筆圧のかけ方を鉛筆でも再現できるようにする。 ○文字を書く時の正しい姿勢や正しい鉛筆の持ち方に気を付けるように声を掛け、意識化を図る。 ○上手に書くことができていた部分を称賛したり、意識する部分を助言したりすることで、整った文字が書けるようになる達成感を高める。	水書用筆 水書用紙 書き方鉛筆 ワークシート
まとめ	5 学習のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・隣同士で終筆の書き方を確かめ合う。	○試し書きと比べたり、「とめ」「はらい」について、よくできているところをお互いに伝え合ったりするように助言することで、児童が基準の達成度を確かめられるようにする。言葉でうまく伝えられない場合は、よくできているところを指で指したり、手で○をつくったりするなどのジェスチャーでもよいことを伝える。 ◇終筆（「とめ」「はらい」）を正しく書いている。 【知識及び技能】	

日常化	6 平仮名を分類する。 ・終筆が「とめ」「はらい」になっている文字を正しく分類する。	○ギガタブで分類できるシートを事前につけておき、それを大型テレビに映しながら分類させることで、児童が他の文字でも「とめ」「はらい」に気を付けて書こうとする気持ちを高められるようにする。 ◇他の文字についても、終筆（「とめ」「はらい」）の書き方を意識して分類しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】	ギガタブ 大型テレビ
-----	--	---	---------------

（３）板書計画



（４）机上の配置

